

と 緑龍文化

第37号

令和6年3月31日発行

発行：龍ヶ崎市文化協会 / 編集：龍ヶ崎市文化協会広報担当

事務局：龍ヶ崎市教育委員会 文化・生涯学習課内 TEL 64-1111 (内線234)

龍ヶ崎市文化協会は、市民の文化芸術活動の振興に寄与し、分野を超えて会員相互の交流を深め、龍ヶ崎市の文化の発展高揚を図ることを目的とする団体です。



加盟団体一覧 (令和5年12月現在)

No.	部会名	加盟団体名	No.	部会名	加盟団体名
1	器楽	琴ききょう	18	写真	全日本写真連盟 ひたち野支部
2	器楽	香美会	19	陶芸	陶芸クラブどんぐり
3	日本舞踊	舞踊部	20	陶芸	長山陶芸倶楽部
4	バレエ	桜井クラシックバレエ教室	21	工芸	きの子たけの子の会
5	ダンス	DANCE CLUB ANGEL	22	茶道	茶道部
6	民謡	龍ヶ崎相撲甚句会	23	華道	華道部
7	民謡	民謡美武会	24	書道	書道部
8	吟詠	吟詠部	25	篆刻	龍ヶ崎篆刻の会
9	郷土芸能	津軽三味線喜幸会 龍ヶ崎支部	26	篆刻	松葉篆刻の会
10	演劇	竜ヶ崎子どもミュージカル	27	短歌	龍ヶ崎短歌会
11	絵画	絵画部	28	俳句	龍ヶ崎俳句倶楽部
12	絵画	龍水会	29	俳句	ほほえみ俳句会
13	絵画	しゅんこう和紙ちぎり絵	30	川柳	龍ヶ崎市川柳連盟
14	絵画	アートサークル馴染	31	盆栽	龍ヶ崎盆栽会
15	絵画	龍宮墨水会	32	園芸	らん友会龍ヶ崎
16	写真	龍ヶ崎写真クラブ	33	ダンス	Nu ダンスクラブ
17	写真	川原代写真クラブ			

網掛けは、新規加盟団体



功労者表彰

表彰者一覧 (推薦受付順)

- 田中晃 (アートサークル 馴染)
- 川村泰子 (舞踊部)
- 木村はつゑ (舞踊部)
- 藤ヶ崎澄子 (絵画部)
- 本橋正 (絵画部)
- 河原崇昭 (吟詠部)
- 長岡武志 (吟詠部)
- 華道部 ※敬称略



川村泰子さん



田中晃さん



本橋正さん



藤ヶ崎澄子さん



木村はつゑさん



華道部



長岡武志さん



河原崇昭さん

令和六年一月十二日（金）調布市・視察研修

副会長 石渡 静夫

午前八時三十五分、氷点下の冷え込みの中、松田会長以下二十三名を乗せたバスは大昭ホール龍ヶ崎から一路、調布市を目指して出発した。

雲ひとつない好天に恵まれ、深大寺周辺の散策を楽しみ、昼食では名物の深大寺蕎麦に舌鼓を打った後、交流会場である調布市文化会館「たづくり」へと向かった。

「お蕎麦は美味しかったですか」と調布市文化協会役員の温かな出迎えを受け、近代的な十三階建てビルの調布市文



深大寺参道



深大寺



調布市文化協会・大内会長



研修交流会



調布市文化協会役員の皆様

化会館「たづくり」の入口前で参加者が集合して記念撮影を済ませた。通路には地元の写真家・水木しげるの作品も展示されている。文化都市の香りが漂っていた。

午後一時三十分、調布市側から二十一名の参加者を得て研修交流会が開催された。

最初に大内調布市文化協会会長より五年前に調布市が龍ヶ崎市を訪問したことに始まった両協会の縁を振り返りつつ、調布市文化協会の現状について説明があった。続き

て松田会長より長年の懸案であった調布市訪問が実現できたことの喜びが伝えられた。両会長ともに冒頭で、元旦に発生した能登半島地震、翌二日の日航機事故のお悔やみとお見舞いを述べられ、この交流会開催の意義について再度確認された。

参加者の中には、当時役員を務められた会員が双方におり、お互いが当時の思い出を発表し合う中で、笑い声も起こり一気に会場内は和やかな雰囲気になっていった。

以後、予算、組織運営、文化祭の内容等、文化事業に関する活発な意見の交換が行われた。特に調布市の文化祭は、三つの公民館を含めた全市を

挙げての市民一丸となって行うものであり、加盟団体の幅の広さと層の深さ、市民の熱意に圧倒されてしまった。

予定されていた時間はあっという間になくなり、司会進行の役員も、今日初めて会ったとは思えない打ち解けた交流会でしたと絶賛。最後に本協会の新井副会長より、大きな素敵な建物の会場で活発に研修交流できたことに対して謝辞が述べられた。

調布市文化協会役員の両手を振っての見送りを受け、調布市文化会館を後にした。

帰りの首都高速道路から見た夕焼け空には、大きな影富士が見え充実した一日を祝福してくれているようであった。

事務局からのお知らせ

【加盟団体交付金】

交付金の充填事業の領収書は、市長名で発行する交付決定通知書の交付日以降の領収書が必要となります。事業が決定したら早めの申請をお願いします。

【市バス使用の留意事項】

予約は、利用日の三か月前からになります。

運行時間は、市役所開庁日の八時半から十七時までとなります。

会員以外の方は、乗車できませんのでご注意ください。

【会議欠席時の資料】

本部会・理事会を欠席した場合は、後日、事務局まで受け取りにきてください。

令和六年度 会議等の予定

四月五日（金）十三時半から

監査：市役所附属棟一階

四月十一日（木）十三時半から

本部会：市役所附属棟一階

四月十八日（木）十時から

理事会：市役所附属棟一階

四月二十五日（木）十時から

総会：市役所附属棟一階



4年ぶりに全催事を実施
1万7千人以上が来場

第32回 龍ヶ崎市民文化芸術フェスティバル

会期：令和5年10月27日～11月23日
主催：公益財団法人龍ヶ崎市まちづくり・文化財団



文化芸術フェスティバルが、大昭ホール龍ヶ崎（龍ヶ崎市文化会館）を主会場として開催され、展示・発表・体験催事など24の催事が実施されました。

龍ヶ崎市の秋の恒例行事として定着している市民が主役の文化と芸術のイベントも、ここ数年はコロナ禍により縮小開催を余儀なくされていましたが、今年は4年ぶりにすべての事業が復活し、文化協会の役員も積極的に参加した結果、17,000人以上の皆さんに参加・来場いただくことができました。

展示の部

- 10/27(金)～29(日) 盆栽展
- 10/28(土) 29(日) いけばな展
- 11/ 1(水)～ 5(日) 写真・ちぎり絵展
- 11/ 3(金)～ 5(日) 洋らん展
- 11/ 8(水)～12(日) 絵画展・陶芸・工芸展
- 11/15(水)～19(日) 書道・俳句・短歌・
川柳展・篆刻・団体展示



発表の部

- 10/29(日) 歌謡舞踊と小曲のつどい
- 11/ 5(日) 吟詠・津軽三味線・箏曲・
民謡・日本民舞のつどい
- 11/12(日) 洋舞



体験催事

- 10/29(日) いけばな体験教室
- 11/ 4(土) テーブルフラワー教室
- 11/11(土) 茶会
- 11/12(日) 竹細工教室
- 11/18(土) 篆刻の作り方教室



加盟団体の活動報告

舞踊部

ここ数年新型コロナウイルス感染症により、人が集い、文化活動や文化の推進、長年続けてきた福祉施設慰問という当たり前のことが難しい状況が続いていましたが、ようやく終息の兆しになり、昨年の第三十二回文化芸術フェスティバルでは、ここ数年続いた入場時の、感染予防の検温や連絡先の記入などのない、舞踊発表が華やかに開催され、市民の皆様にご喜んでいただけたと思います。

今年はいまだ以上に舞踊文化の推進と中止となつて



いた慰問活動を再開していきたいと願っています。さらに五月の文化の祭典では素晴らしい舞踊を発表してまいりますので多くの皆様のご来場をお待ちしています。

※舞踊部では、舞踊に興味のある方、はじめてみたいと思ふ方を募集していますのでご連絡をよろしく願います。

アートサークル馴染

アートサークル馴染は結成以来十二年経過し、サブラでの作品展示会も十三回目を迎えることができました。

現在、会員数も十八名になりましたが高齢化も進んできています。活動は毎月第一、第三木曜日に馴染コミュニティセンターで水彩画を主とした静物写生をしています。

年一回のサブラでの作品発表会、三か月毎のコミュニティセンターでの展示、市バスを利用しての年二回の写生会。さらに文化の祭典や市民文化芸術フェスティバルに積極的に参加するなど、市の文化発展に協力してきています。

今年度の写生会は、ひたち海浜公園でのネモフィラのスケッチと鶉の岬でのスケッチを実施しており、会員の生きがい学習にもなっています。

講師は実生会理事の菊地義正先生を依頼して、技量アップを図っています。ジャンルは水彩画、油彩画、パステル画と問いませんので、興味のある方の入会を歓迎します。



陶芸クラブどんぐり

陶芸クラブどんぐりは、平成十三年にくりーんプラザ・龍で、山懸先生のもとに四名の会員で発足しました。

当クラブの工房は、電気釜で陶芸関係の設備は全て整つ



ており、とてもいい環境となっています。

毎年指導目標を設定し、大きな壺、大皿、土鍋、急須、大きな花瓶、オブジェ等、年々多様な作品作りに挑戦し、技術のレベルアップの指導を受けて、二十数年が過ぎました。毎年、市民文化芸術フェスティバルには、新作品の展示会を実施し大勢の人に見ていただいています。

また、コロナ禍前には、親子陶芸教室の指導や、市民環境フェア、お祭り等地域活動に積極的に参加してまいりました。

また、窯元の視察研修会を行い、いろいろな作品を見学

し、視野を広げました。

現在では、自分の思い思いの作品を作りながら、山懸先生の指導を受け、技術の向上を図り、楽しく作陶に励んでいます。

当クラブの会員数が十名となり、会員募集をしています。一度陶芸体験に来てください。

川原代写真クラブ

私達、川原代写真クラブは、発足二十三年余りになります。活動は、毎月第二日曜日午前九時〜十二時に行っています。

講師に写真家、佐藤有氏をお招きしてカメラの機能や構図等を勉強し、会員の相互の親睦を深めながら、それぞれの個性を尊重し自由な視点と歓声で被写体に取り組んでいます。

また、最近では会員の高齢化が進み、メンバーが段々少なくなつてきていて、定例会の時には写真を持ち寄つて講師に講評していただいているのですが、会員が少ないことから、写真も少なくなつてしまい寂しい状況ではあります

が、これからも楽しくやって行きたいと思えます。



民謡美武会

私たちの会は発足して十五年になります。現在会員数は二十五名です。今年四月からは五名の入会がありました。みな高齢者で六十代の人はいません。三分の一が後期高齢者です。家にいると年寄扱いされるので、ここに来て大きな声で民謡を唄うことでストレス解消になり最高と喜んでる民謡の楽しい会です。

年二回のおさらい会、文化の祭典、市民文化芸術フェスティバルには全員が出場しています。今年地区コミュニティセンターの敬老の集いへ

の出場依頼があり八名の出場市の敬老の日にも出場依頼があり、五名が出演しました。文化芸術フェスティバルでは、初めてステージに立った人もいましたが、皆さん喜んでいました。

民謡は「心のふるさと」と言われ「お国言葉」でいやされるところも民謡の良いとところかもしれません。これから色々な活動を通じて民謡の発展に努めていきます。



龍ヶ崎俳句倶楽部

当倶楽部が発足したのは、平成三十年十二月、今年度で満五年となります。当倶楽部は、俳句という文芸形式をこよなく愛する会員らにより、自主的に運営されています。

具体的な活動としては、市

中央図書館の鑑賞室を使用させて頂き、月一回の定例句会を行うことや、年一回の吟行会、さらには新年会の実施により、会員個々の句力の向上、並びに会員相互の親睦に寄与することを目的としています。

活動の具体的な一例を紹介します。令和五年十一月一日ほほえみ俳句会と合同で吟行会を十八名の参加者を得て実施しました。吟行地は、本県西部の古河市。永井路子をはじめとする地元ゆかりの文学者を顕彰する古河文学館や古河城址にある古河歴史博物館を訪れ、参加者相互の友好を深めた一日になったと思っております。



琴ききよう

「日本文化の『琴』をより身近に楽し、更に音楽で元気になるう」をモットーに二〇一三年に発足しました。



日本古来の「琴」である十三弦・十七弦、オリジナルのソプラノ弦・ドレミニ二弦・ベース弦を加えて、『琴オーケストラ』の音域を広げています。

【練習日】毎月一回
・ 馴染コミュニティセンター
・ 九時三十分～十三時
会員 七名

講師 岩野典子(生田流・琴エスワールド・ミュージックスクール東京校)

【二〇二三年の演奏会】
三月 馴染コミュニティセンター
五月 長寿大学のお花見コンサート(大昭ホール)

九月 東京コンサート

(セシオン杉並)

華道部

華道部は四つの流派(池坊・小原流・草月流・龍生派)の二十四名で活動しています。

【池坊】

室町時代に成立した立花。江戸時代に草木が地に根を張り生きる姿を表現し、生命の輝きを表す生花。明治以降あらゆる空間に対応し、自由な発想でいける型をもたない自由花。

伝統を継承しつつ時代に即した池坊の生花を創造し、誰が見ても心に残る花をいけています。

【小原流】

明治の頃、外国からの花が輸入されるようになると今までの床の間を離れ玄関や居間などにも飾ら



れるようになりまして。

初心者は剣山を使いますが、七宝と呼ばれる花留めを使うことが特徴です。

【草月流】

「いつでも・どこでも・誰にでも」そしてどんな材料を使ってもいけられるということを特色にしています。植物は自然のものですが「生け花は、いけた人のものである」という理念を根本においています。

自然が生み出した美とは違う、人の想いによる美を生け花で作っています。

【龍生派】

新しい感覚で日々の暮らしに潤いと癒しを添える『ひびか』を推進しています。『ひびか』は小さくてかわいらしく、少しだけのスペースがあれば「生け花」に感じる創作の楽しさを手軽にいけられるものです。お子様から年齢幅広く自然の造形美に心をときめかせていただきたいと思います。

書道部

「世代をこえて」

書道部は、五つの団体で構

成されています。年齢層は高

くなりましたが、それぞれの教室にて、漢字・仮名・詩文書など研鑽を積みながら、春の文化の祭典と秋の市民文化芸術フェスティバルにて日頃の成果を発表しています。

特に、改装された小ホールに一般作品に交って、小・中・高生の作品展示スペースもい

ただくことができました。伝統文化が衰退しつつある中、書道文化の大切さを広く伝える意味でも、大人と子供との同時展示は大変喜ぶべきことであり、今後ともぜひ継続されることを望んでやみませ



ん。児童や高校生の作品を見て、来場者からも、「元氣と勇気をもたらしました。」との声を頂きました。

これからも、臨書だけにとどまらず、創作に向けての努力をしながら、意欲的な歩みを続けてまいりたいと思います。

茶道部

茶道部は、コロナ禍で茶会

が中止になるなど大変な影響を受けましたが、今年度四年ぶりに「お茶とお琴演奏会」と「市民文化芸術フェスティバル」での茶会を開催することができました。お菓子を個包装にするなど工夫し、多くのお客様に来ていただきました。皆様の笑顔に接したことは私たちにとっても大きな喜びでした。今まで以上に感染対策を徹底することによって安心してお茶を楽しんでいた

だけたと思います。茶道はその精神を学び日々の生活にも活かすことができます。日本の貴重な文化である茶道はこれまでも時代に合

わせて変化してきました。こ

れからも「一期一会」の出会いを大切にしていきたいと思っています。



龍ヶ崎短歌会

短歌をこよなく愛する者の集まりです。昭和三十七年、文化協会発足と同時に加盟した長い歴史があります。毎月第三水曜日、午後一時から中央図書館で歌会を行っており、日帰りの吟行会や新年会で会員の親睦を図っています。

市内には広大な牛久沼や小貝川の流れ、自然豊かな蛇沼公園、たつのこやまから眺める富士山・筑波山・牛久大仏

地平遙かな水田風景等があり、散歩のついでに詩ができそうです。季節の変化、日々の感動を自分の言葉で、自分にかできない短歌を作ってみませんか。その歌の思いが他の人の心に届いたら、何と素晴らしいことでしょう。日本の風土を愛し、郷土を愛し、会員が相互に研鑽を重ねている楽しい歌会に、どうぞおいでください。

龍ヶ崎市は今年市制七十周年です。文化協会は発足から六十二年目です。龍ヶ崎短歌会は、これからの市の文化向上のために、積極的に協力してまいります。

